

## 事業実施計画書

文部科学省初等中等教育局長

住所 長野県長野市南長野幅下 692-2

管理機関名 長野県教育委員会

代表者名 教育長 原山 隆一

### 1 事業の実施期間

契約締結日～令和4年3月31日

### 2 事業拠点校名

学校名 長野県上田高等学校

学校長名 廣田昌彦

### 3 構想名

「SDGs 未来都市長野」から世界へつなげる信州版AL ネットワーク

### 4 構想の概要

長野県では、将来WWLコンソーシアムを県内に構築することを可能にするプラットフォームの整備を進めてきた。これらを「イノベティブなグローバル人材育成のためのプラットフォーム」という視点から再構築又は新規に構築し、信州版AL ネットワークを実施3年間でWWL コンソーシアムの中核となる組織に仕上げる。

事業拠点校となる上田高等学校は、SGH 校としてこれまでグローバル人材育成にかかる拠点の役割を果たし、21世紀型学力の向上に資する成果の普及を図ってきた。この成果をベースとして『「いのち」を視点に、統合的・全体的アプローチによってSDGsを探究する』AL ネットワークを構成する。これにより、地方公立高校の生徒たちに、単独校では得られない教育の機会を与え、時間や場所等の条件を超えて、自らのアクションにより新しい価値や新しい社会を主体的に創造していくことができるグローバル・リーダーの育成をめざす。

### 5 令和3年度の構想計画

#### Ⅱ AL ネットワークの形成

##### 1 組織強化・拡充

- (1) 令和2年度に形成したAL ネットワーク（拠点校、共同実施校、連携校、連携先、大学等）の連携を更に強める。
- (2) 2校（須坂高校、伊那弥生ヶ丘高校）が新たに連携校に参加、更にネットワークの拡充を図る。
- (3) 学校ごとに探究のためのプラットフォームの整備に着手する。
- (4) 運営指導委員会、検証委員会の実施。

##### 2 情報共有体制の整備

- (1) 高等学校間での定期的な推進会議を継続して実施する。
- (2) ウェブサイトにてこまめな情報発信を行う。拠点校に続き、共同実施校にも本事業に係るウェブサイトを設置する。

##### 3 修了生の国内外のトップ大学への進学や海外留学等の促進に向けた計画

- (1) 海外進学・留学ワークショップ

ア NPO 法人グローバルな学びのコミュニティ・留学フェローシップの協力を得て、海外進学・留学講座を引き続き実施する。令和2年度はオンライン実施だったため、令和3年度は対面でも実施する。

イ HLAB OBUSE 等が企画するサマースクール等にAL ネットワーク（拠点校、共同実施校、連携校）生徒の参加を勧める。

(2) 「学びの指標」の試行の検証

令和3年度を全県共通質問を実施・活用する試行期間とし、生徒・教員の意識改革や学ぶ意欲の向上について検証を行う。

(3) グローバルな活躍をしている講師による講演会

拠点校・共同実施校でグローバルに活躍する講師や地域に住む外国人による講演会を引き続き実施。講演会はAL ネットワークの高校間で遠隔配信し、希望生徒の参加を可能とする。

(4) 生徒の自主活動の推進

共同実施校が主催する全県対象の生徒会交流会を引き続き実施。

(5) ポートフォリオの作成指導

引き続きコアリッションアプリケーションの研究を行う。

#### 4 カリキュラムを研究開発する人材の配置

(1) カリキュラムアドバイザー

引き続き県教育委員会高校改革推進役の内堀繁利氏に依頼。AL ネットワーク会議等で助言をいただく。

(2) 海外交流アドバイザー

配置は初年度で終了となるが、海外研修が難しかったところから、令和2年度のアドバイザー（JICE、ICAN、松本空港国際化特別顧問）に引き続き講師として助言をいただく。

(3) グローバル（外国人）講師：拠点校に外国人講師を引き続き配置。日本人教師と協力してカリキュラム開発を継続。

(4) 事務職員：非常勤職員を拠点校に配置する。

#### 5 テーマと関連した高校生国際会議の開催に向けた計画

(1) 国際会議実行委員会の立ち上げ

ア AL ネットワークの生徒による国際会議生徒実行委員会を立ち上げる。

イ 定期的に会議を持ち、テーマ設定、実施方法などに生徒のアイデアを取り入れて、最終年度に実施予定の高校生国際会議の形を作っていく。

ウ AL ネットワーク参加校のある各地域でミニ国際会議を実施して、テーマについて研究を深める。

(2) 北陸新幹線サミットの実施

ア 6月に拠点校で行っている北陸新幹線サミットを国際会議に向けて、外国の生徒や留学生が参加できる形に変えていく。

イ 生徒実行委員会が運営等に参画する機会を作る。

ウ SDGs 探究サポーター等連携機関がアドバイザーとして参加する機会を設ける。

(3) 海外連携先との交流

AL ネットワーク各校がすでに連携している海外の高校等とのつながりを活用し、オンライン等も用いて交流していく。

#### 6 フォーラムや成果報告会等の実施に向けた計画

(1) 学習成果報告会・アカデミックプレゼンテーション

ア 2月に拠点校ですべての2年生生徒が課題研究の成果をポスターセッションの形式で発表する学習成果報告会を行う。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で拠点校と共同実施校生徒の発表のみだったが、令和3年度はAL ネットワーク全体の成果報告の場とする。

イ 拠点校で引き続き年2回のアカデミックプレゼンテーションを実施。AL ネットワーク参加校にも配信し、意見交換を行う。

(2) 「高校生学びのフォーラム長野」

県教育委員会が主催する高校生学びのフォーラム長野（マイプロジェクト）にAL ネットワークからの積極的な参加を促し、探究的な学びを更に深める機会とする。

(3) 全国高校生フォーラム

拠点校、共同実施校だけでなく、連携校にも積極的な参加を呼びかける。

(4) 県のSDGsの取組と連携した高校生の探究・発表機会

「SDGs 未来都市」である本県の施策に関わって国内外での発表の機会の提供を依頼。

## 7 情報収集・提供等、その他の取組に関する計画

(1) 教員研修会

ア 令和2年に実施した「学びの指標」「探究的な学び」「探究学習の評価」「ルーブリック」の研修会に加え、「カリキュラムデザイン」などをテーマに教員向けの研修会を開催する。

イ 「学びの改革」フロンティアスピリッツ事業（教員の国内外での自主的な研修）

(2) 海外の高等学校との姉妹校提携

令和2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で進んでいないが、海外の学校と協働のための姉妹校提携に向けて協議していく。

## III 研究開発・実践

### 1 テーマとして設定するグローバルな社会課題

『「いのち」を視点に、統合的・全体的アプローチによってSDGsを探究する』

SDGs 探究サポートプラットフォームを活用し、外部機関とも協働しながら、SDGsを「いのち」という視点で探究する。

### 2 関係機関による先進的なカリキュラムの研究開発・実施体制

(1) KDDI との連携による授業開発

令和2年に株式会社KDDIと県教育委員会が包括連携協定を締結。この連携を活用し、デザインシンキング授業等を継続的に実施する。

(2) 国際関連機関、学術機関、民間企業等でのフィールドワーク

拠点校が連携協定を結んでいる東京外国語大学を始め、JICAや佐久総合病院、県内外の大学など学術機関及び民間企業等で拠点校・共同実施校ともフィールドワークを行い、学びの深化を目指す。

(3) 教育現場の課題解決を目的とした海外大学の学生インターンシップ受入れ

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で受入れられなかったが、海外大学生のインターンシップ受入れに向けた協議を行う。

### 3 新たな教科・科目の設定（令和2年からの継続）

(1) 地球市民としての感性や価値観の養成を目的に、教科等横断的な学びの視点を取り入れた教科「グローバルスタディーズ」の開発を拠点校で継続するとともに、令和4年度の新教育課程の実施に向けた文理融合科目、CLIL等の研究を進める。

(2) AL ネットワークの生徒が参加できる仕組の構築。

◆1年次 「グローバルスタディⅠ」（1単位・学校設定科目）

探究的な学びを通して、協働性・可塑性や国際感覚などの汎用的な能力を養成する。個々のSDGsの課題の背景となる構造的で複雑な側面を教科等横断的な視点で探究する。県内のフィールドワークやJICAによる講演会を実施。

◆2年次 「グローバルスタディⅡ」（2単位・学校設定科目）

「グローバルスタディⅠ」で育んだ資質・能力の更なる養成を図る。1学年で取り組んだ課題を県外のフィールドワーク等を通じて更に深め、議論し、解決策を校内外で提言する。その際、課題の中にある対立・ジレンマに特に着眼しながら、全体性・統合性という視野の中で、否定性受容力の向上をはかる。ICT機器を駆使した調査やプレゼンテーションの技術を身につける。2単位のうち1単位を英語で行うことで発信力

の向上を図る。また、KDDIによるデザインシンキングの単元を設け、答えのない課題へのアプローチ方法を体験する。

- ◆新教育課程で実施予定の新科目「グローバルチンズシップ」「デザインシンキング」「グローバルスタディⅢ」の導入に向けた研究・準備を行う。

#### 4 カリキュラムに位置づけられた短期・長期留学や海外研修

以下の海外研修については、渡航が不可能となった場合でも、なるべく同等の成果が得られるよう、オンラインでの代替プログラムについても同時に準備していく。

##### (1) 台湾研修旅行【海外研修】【拠点校・共同実施校】

総合的な探究の時間の一環として、2年次の秋に全員が台湾での研修を実施する。現地でのフィールドワーク、研修先での研究課題をテーマに英語による発表や討議を行う。

##### (2) 拠点校・共同実施校との海外研修の合同実施

拠点校・共同実施校が従来から、独自に実施してきた以下のプログラムについて、相互乗り入れを検討する。一般財団法人日本国際協力センター（JICE）の協力を得て、プログラムの充実をはかる。

- a ポストンスタディープログラム【短期留学・拠点校】
- b ヒューマン アクト イン マニラ【海外研修・拠点校】
- c カンボジア井戸プロジェクト【海外研修・拠点校】
- d ニュージーランド語学研修【短期留学・拠点校及び共同実施校】
- e マレーシア研修【海外研修・共同実施校】
- f ネパール研修【海外研修・オンラインとの併用・共同実施校】（新規）

共同実施校・松本県ヶ丘高校のある松本市とネパール・カトマンズ市が姉妹都市であることから、市の総合戦略課国際交流担当者とも連携し、途上国の社会課題解決に取り組むPBL型海外研修を実施する。令和2年度にはオンライン研修で、現地のと結び、ネパールの社会課題解決策の提案を試みた。今後、渡航が可能になれば現地へ赴き、解決策の提案にとどまらず、実際に行動に移せるよう、探究活動を深める。

##### (3) 高校生海外留学支援事業「信州つばさプロジェクト」の活用

県が整備する留学プラットフォーム「信州つばさプロジェクト」、環境政策課による「信州環境カレッジ×信州つばさプロジェクト」（COP26への高校生の参加）を活用。海外での探究活動を希望する生徒の支援。

#### 5 バランスよく学ぶカリキュラムの編成

人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野の科目をバランスよく学ぶことのできるカリキュラムの研究。

#### 6 工夫された学習活動の実施に向けた計画

##### (1) 県立高校「未来の学校」構築事業【管理機関】

県独自事業において、先進的・先端的な研究開発に5年間取り組む実践校6校に指定されている連携校の野沢北高等学校・松本深志高等学校・須坂高等学校の取組を共有していく。

##### (2) 連携校間での自由選択科目群の共同実施や教員の相互乗入計画

各校間で、遠隔通信を活用するなどして、自由選択科目の履修を可能にするシステムについて研究、調整。可能であれば、令和4年からの実施を目指す。

##### (3) 外部講師として民間の知見を活用し、より実践的な課題解決の方法を学ぶ

PBL型の学びに協働機関から講師を招いたり、フィールドワークの受入を依頼し、実践的な学習ができる環境を整備する。

##### (4) 信州版ALネットワークで育成する力の明確化

取組を通じて育成する力を明らかにし、ルーブリックを作成する。

#### 7 大学教育の先取り履修の実施に向けた計画

##### (1) 県内大学による「高度な学び講座」の実施

県内大学等と連携し、高校では学べない学びの機会を提供する。

ア 「総合的な探究の時間」研修会と「主体性を育む夏合宿」

イ 高校生対象講座の開催（大学教員による特別講座など）

(2) 県内大学との先取履修の実施に向けた研究

長野県立大学との先取履修に係る研究を進めていく。また、松本県ケ丘高等学校探究科生徒が、信州大学松本キャンパスでの聴講あるいは科目等履修をカリキュラム内に設置できるかについて、大学側と研究協議を継続していく。

(3) より高度な内容を学びたい高校生のため拠点校・共同実施校の条件整備

JMOOCのようなオンライン講座のカリキュラム化について、拠点校で研究する。

8 留学生受入れのプラットフォーム

AL ネットワークで留学生を受け入れ可能家庭のリストを作成する。

IV 財政等支援

1 自己負担額の支出計画

事業名	内容	予算 (千円)
高校生海外留学支援事業 「信州つばさプロジェクト」	県内高校生の留学支援事業。「企業版ふるさと納税」（H31年3月内閣府認定）も活用し、県・民協働で高校生の主体的な留学を支援する。	34,791
高校生学びのフォーラム 長野	「探学的な学び」の成果を発表し合う場とし、「マイプロジェクト・サミット(仮)」地方大会として位置づけ、全国大会へ出場のチャンスを与える。拠点校・共同実施校の生徒の研究を全県に発表する機会となることを期待。	3,915
県立高校「未来の学校」構築事業	先進的・先端的な研究開発に概ね5年間取り組む実践校を指定。連携校との交流を推進。	6,334

2 人的又は財政的な支援、研修やセミナー等の実施に向けた計画

(1) グローバル講師の配置

授業の一部を単独で行う特別非常勤講師のALTを拠点校に配置する（県費負担）

(2) 教員の研修等への財政支援

a 「学びの改革」フロンティアスピリッツ事業

選考によって選ばれた教職員が国内外で研修する際の費用を一部負担する。

b 「海外での学び」推進事業「信州つばさプロジェクト」

県が企画する1週間程度の高校生短期留学プログラムの引率に、今後活躍が期待される若手教員を充て、教員のスキルアップの研修機会ともなるよう設定する。

<添付資料>

- ・令和3年度教育課程表

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
AL ネットワーク組織強化	学びの改革支援課	宮下美和
情報共有体制	学び・上田・県ケ丘	宮下・市川・徳永
海外進学講座	学びの改革支援課	宮下美和
学びの指標	学びの改革支援課	小山田佳代
グローバル講演会	上田・県ケ丘	白鳥敏秀・羽賀規真
生徒の自主活動の推進	松本県ケ丘高校	宮下達郎
ポートフォリオ作成指導	上田高校	高野英美

人的配置	学びの改革支援課・上田	宮下美和・高野英美
海外高校との連携	上田・県ヶ丘	高野英美・羽賀規真
国際会議生徒実行委員会	学びの改革支援課	宮下美和
北陸新幹線サミット	上田高校	松田大輝
成果発表会	学び・上田・県ヶ丘	宮下美和・白鳥敏秀・近藤慎
学びのフォーラム長野	学びの改革支援課	宮澤美郷
全国高校生フォーラム	学び・上田・県ヶ丘	宮下美和・白鳥敏秀・近藤慎
SDGs 探究発表(外部)	学びの改革支援課	宮下美和
先進的なカリキュラム開発	上田高校	市川格・高野英美・小林まゆ子
新たな教科・科目	上田高校	市川格・高野英美・小林まゆ子
海外研修	上田・県ヶ丘	白鳥敏秀・羽賀規真
カリキュラム編成	上田高校	市川格
未来の学校	学びの改革支援課	前山和志
工夫された学習活動	学びの改革支援課	宮下美和
A P	学びの改革支援課	宮下美和
留学生受入れの体制整備	学びの改革支援課	宮下美和

## 7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和3年4月1日～令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ALネットワーク組織強化	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
情報共有体制	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
海外進学講座			→						→			
学びの指標	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
グローバル講演会		→					→				→	
生徒の自主活動推進	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ポートフォリオ作成指導	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
人的配置	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
海外高校との連携	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
国際会議実行委員会		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
新幹線サミット	→	→	→									
成果発表会			→				→				→	
学びのフォーラム長野	→	→	→	→	→	→	→	→	→			
全国高校生フォーラム							→	→	→			
先進的なカリキュラム開発	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
新たな教科・科目	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
海外研修									→			→
カリキュラム編成	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
未来の学校	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
工夫された学習活動	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
A P	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
留学生受入れ体制整備	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

## 8 再委託先の有無 無

## 9 所要経費

別添のとおり

### 【担当者】

担当課	学びの改革支援課	TEL	026-235-7435
氏名	宮下美和	FAX	026-235-7495
職名	主任指導主事	E-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp

